

ベトナム農村における自然災害と貧困・家計所得

東海大学 高橋 壘

1. はじめに

近年、気候変動や自然災害が発展途上国経済に与える影響について国際的な関心が高まっている。例えば世界銀行は、毎年刊行している『世界開発報告書(World Development Report)』の2010年版において、「開発と気候変動」をテーマとしてとりあげ、発展途上国ほど気候変動リスクが高いにも関わらず、それに対する抵抗力が乏しいことを指摘している(World Bank [2010])。すなわち、発展途上国における自然災害のリスクは、貧困・所得格差問題と密接な関連を持っている。中進国であるベトナムにおいても自然災害による負の影響は頻繁に見られ、例えば昨年、ベトナム南部メコンデルタ地域の大旱魃が農業生産に与えた打撃は記憶に新しい。本報告では近年のベトナムにおける自然災害と貧困の傾向を確認し、マイクロ計量分析を用いて自然災害が家計所得に与える影響の導出を試みる。

2. データ

本報告では、ベトナムの家計レベルマイクロデータである VHLSS (Vietnam Household Living Standards Survey) の2010年版(VHLSS2010)の所得・支出調査データが主として用いられる。VHLSSには二種類のデータセットが含まれている。一つは家計レベルのデータセットであり、もう一つはベトナムの最末端行政単位である行政村(Commune)レベルのデータセットである。後者は行政村の長に対する聞き取りにより収集されたデータであり、家計データには含まれていない自然災害のデータが含まれている。すなわち、当該調査前3年にわたり調査対象行政村に起こった自然災害に関するデータである。Arouri et al. [2015]はこのデータ特性に着目し、家計データと行政村データを結合して、自然災害と家計所得に関する分析を行った。本報告でもArouri et al. [2015]に倣い家計・行政村各データを結合させて分析に利用する。

3. ベトナムにおける家計所得・貧困の状況と自然災害リスク

ベトナム統計総局から公表されている貧困指標によれば、ベトナムの貧困層は農村部に集中しており、地域別には、自然災害リスクがベトナムの中でも高い傾向にある北部山岳丘陵地域、北中部・中部沿岸地域、中部高原地域において多いことがわかる。これらの事実は、近年のベトナムにおいて農村部の貧困を分析すること、自然災害リスクと貧困問題の関係を分析することの重要性を示している。

4. 自然災害が家計所得・貧困に与える影響の分析—分位点回帰—

Arouri et al. [2015]は Commune fixed effect regression を用いた分析を行ったが、彼らが用いたモデルは自然災害が家計の所得水準、貧困に与える平均的な効果を得るに留まる。したがって本報告では、家計データと行政村データを結合することによって生じる内生性を考慮しつつ、分位点回帰(Quantile regression)を利用して、家計の所得分布を意識した分析を行った。

5. むすびにかえて

以上の分析から、洪水、暴風といった自然災害は、中・高所得層の農村家計に深刻な負の影響を与えることが明らかになった。また旱魃はすべての所得階層に負の影響を与えた。前者は中・高所得層の資産が洪水、暴風により損害を被ることにより説明できる。また貧困削減の観点からは旱魃に対する施策が重要といえよう。

主な参考文献

- [1] Arouri, M., C. Nguyen and A. B. Youssef [2015] “Natural Disasters, Household Welfare, and Resilience: Evidence from Rural Vietnam.” *World Development*. 70 (June), pp.59–77.
- [2] World Bank [2010] *Development and Climate Change*. Washington, D.C.: World Bank.